

群馬パース大学 看護実践教育センター
認定看護師教育課程（摂食嚥下障害看護）
2022 年度受講者選抜試験

【 専 門 科 目 】

※ 注 意 事 項

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 受験番号を必ず問題用紙表紙上部の欄に記入すること。
3. マークシートには「氏名」を記入し、「番号」に受験番号を記入・マークすること。正しく記入・マークされていない場合は採点できないことがあるので注意すること。氏名・番号・解答記入欄以外の欄には記入しないこと。
4. 解答は、マークシートの解答記入欄にマークすること。解答方法は、選択肢のうち質問に最も適した選択肢を1つ解答記入欄にマークすること。

例えば、1と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号1の解答記入欄③にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 記 入 欄
1	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

5. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及びマークシート・記述用解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題用紙の余白等は適宜使用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了後、問題用紙・マークシートは回収する。

以上

問1 表情筋が本体をなす部位はどれか。

1

- ① 硬口蓋
- ② 軟口蓋
- ③ 口唇
- ④ 口腔底

問2 舌の前2/3に無数に散在する舌乳頭はどれか。

2

- ① 糸状乳頭
- ② 茸状乳頭
- ③ 葉状乳頭
- ④ 有郭乳頭

問3 歯が植わっている骨の容器を何と呼ぶか。

3

- ① 歯根
- ② 歯冠
- ③ 歯槽
- ④ 歯髄

問4 95%以上が無機質からできているものはどれか。

4

- ① エナメル質
- ② 象牙質
- ③ セメント質
- ④ 歯槽骨

問5 歯の痛みを伝える脳神経はどれか。

5

- ① 顔面神経
- ② 三叉神経
- ③ 舌咽神経
- ④ 迷走神経

問6 上下左右それぞれに3本ずつあるものはどれか。

6

- ① 切歯
- ② 犬歯
- ③ 小臼歯
- ④ 大臼歯

問7 舌の運動をつかさどる脳神経はどれか。

7

- ① 三叉神経
- ② 舌咽神経
- ③ 迷走神経
- ④ 舌下神経

問8 ムンプスウイルスが特異的に感染をおこすものはどれか。

8

- ① 耳下腺
- ② 顎下腺
- ③ 舌下腺
- ④ 頬腺

問9 唾液に多く含まれる免疫グロブリンはどれか。

9

- ① IgG
- ② IgM
- ③ IgA
- ④ IgE

問10 食道に関して誤っているものはどれか。

10

- ① 第6頸椎の高さで咽頭より移行する。
- ② 長さ25cmほどである。
- ③ 筋層の上部は横紋筋からなる。
- ④ 粘膜は単層円柱上皮で覆われている。

問 11 高次脳機能障害の説明で正しいものはどれか。

11

- ① 半側空間無視には自己中心の無視と対象中心の無視がある。
- ② 観念運動失行では模倣が可能である。
- ③ 失語症は多くの場合右大脳半球の障害で生じる。
- ④ 失認はあらゆる感覚を介しても物体が認識できない状態を指す。

問 12 レビー小体型認知症に典型的な症状の説明で誤っているものはどれか。

12

- ① レム睡眠行動障害
- ② 再現性のない錯視
- ③ 認知の変動
- ④ 薬剤への過敏

問 13 神経・筋疾患と症状の組み合わせで誤っているものはどれか。

13

- ① パーキンソン症候群 — 筋緊張亢進・運動低下
- ② 進行性核上性麻痺 — 頸部ジストニア
- ③ 多系統萎縮症 — 声帯内転障害
- ④ 筋萎縮性側索硬化症 — 球麻痺症状

問 14 脳神経の説明で正しいものはどれか。

14

- ① 嗅神経は視床を介さず扁桃体に情報を伝達する経路を持つ。
- ② 三叉神経は眼神経の障害で運動障害を呈する。
- ③ 顔面神経は感覚神経を有さない。
- ④ 舌下神経は口蓋帆挙筋を支配する。

問 15 脳の病変部位と症状の組み合わせで正しいものはどれか。

15

- ① 一側性の大脳病変 — 咀嚼筋の運動障害
- ② 両側性の大脳病変 — 球麻痺
- ③ 大脳基底核病変 — 不顕性誤嚥
- ④ 延髄外側病変 — 食道入口部閉鎖不全

問 16 小児の疾患で誤っているものはどれか。

16

- ① 脳性麻痺は痙直型，アテトーゼ型，低緊張型，失調型に分けられる。
- ② ダウン症は巨舌，筋緊張低下による舌突出，溝状舌がみられる先天性疾患である。
- ③ デュシェンヌ型筋ジストロフィーは X 染色体劣性の遺伝性疾患である。
- ④ ピエール・ロバン症候群は染色体 18 トリソミー，13 トリソミーなど数的異常である。

問 17 小児の摂食嚥下障害で誤っているものはどれか。

17

- ① 経口摂取準備期は原始反射の残存が問題となる。
- ② 捕食機能獲得期は下唇を内転し舌尖を固定する動きがみられる。
- ③ 押しつぶし機能獲得期は口角が左右対称に水平に動く。
- ④ すりつぶし機能獲得期は頬と口唇の動きの協調がみられる。

問 18 認知症の特徴で誤っているものはどれか。

18

- ① Alzheimer 病は初期から記憶障害や運動障害を認める。
- ② 血管性認知症は高次脳機能障害や運動症状を多様に認める。
- ③ レビー小体型認知症は認知症とパーキンソニズムを特徴とする。
- ④ 前頭側頭型認知症は初期から人格障害や社会的人間関係の維持の困難が生じる。

問 19 神経・筋疾患の特徴で誤っているものはどれか。

19

- ① 筋萎縮性側索硬化症（ALS）は運動ニューロンが選択的に侵される変性疾患である。
- ② パーキンソン病は重度になると呼吸筋麻痺を起こし，舌などは萎縮を呈する。
- ③ 多系統萎縮症は小脳系，錐体外路系，自律神経系の三系統が変性萎縮する。
- ④ ギラン・バレー症候群の先行感染は液性免疫の関与が示唆される。

問 20 抗誤嚥薬でない薬剤はどれか。

20

- ① シロスタゾール
- ② アマンタジン
- ③ ACE 阻害薬
- ④ ベンゾジアゼピン

問 21 摂食嚥下の 5 期モデルと観察項目の組み合わせで誤っているものはどれか。

21

- ① 先行期 — 記憶障害
- ② 準備期 — 舌のアンカー機能
- ③ 口腔期 — 舌圧
- ④ 咽頭期 — 湿性嘔声

問 22 咳テストで正しいものはどれか。

22

- ① 不顕性誤嚥リスクのスクリーニングに有用である。
- ② 5%クエン酸生理食塩液を用いる。
- ③ ネブライザーから噴霧された薬液を鼻から吸い込んでもらう。
- ④ 咳が 30 秒間に 3 回以上あれば正常と判断する。

問 23 間接訓練と目的の組み合わせで誤っているものはどれか。

23

- ① アイスマッサージ — 嚥下反射の持続的な改善
- ② 開口訓練 — 喉頭挙上の改善
- ③ 頸部等尺性収縮手技 — 喉頭挙上の改善
- ④ バルーン拡張法 — 食道入口部開大不全の改善

問 24 直接訓練で正しいものはどれか。

24

- ① 咳反射の有無が開始基準の一つである。
- ② 寒天ゼリーはゼラチンゼリーと比較して嚥下訓練に適した物性を持つ。
- ③ 食塊形成不全の患者にきざみ食は安全性が高い。
- ④ 段階的摂食訓練では一度に複数の摂食条件を変更することは避ける。

問 25 嚥下法で正しいものはどれか。

25

- ① 複数回嚥下にはゼリーを用いると効果的である。
- ② 息こらえ嚥下は嚥下後の吸気を誘導し、誤嚥を防止する効果がある。
- ③ 頸部回旋法は咽頭知覚が低下している側を向いて実施する。
- ④ 努力嚥下は患者にとって僅かに難易度が高い食形態に少量のみトライする訓練法である。

問 26 嚥下反射の促通法で正しいものはどれか。

26

- ① 食事の温度はできるだけ体温に近づける。
- ② メンソールの摂取は嚥下反射惹起を低下させる。
- ③ 嚥下反射促通手技は前頸部の皮膚を徒手的に刺激する。
- ④ K ポイント刺激法は麻痺がない側を刺激すると効果が高い。

問 27 加齢が摂食嚥下機能に及ぼす影響で正しいものはどれか。

27

- ① 歯牙の欠損が増えることで咀嚼回数は減少する。
- ② 咽頭腔の減少が嚥下圧低下の原因となる。
- ③ 喉頭位置の低下が嚥下中誤嚥の原因となる。
- ④ 嚥下後の呼吸は呼気から再開するパターンが増える。

問 28 高次脳機能障害がある患者の看護で正しいものはどれか。

28

- ① 選択性注意の障害がある患者に対して色や柄がはっきりした食器を選択する。
- ② 転導性注意の障害がある患者に対して食事中そばに付き添って適宜嚥下方法の指導を行う。
- ③ 記憶障害がある患者に対してトライアルアンドエラーで正しいスキル獲得を目指す。
- ④ 遂行機能障害がある患者に対して食器具の数を限定する。

問 29 栄養法で正しいものはどれか。

29

- ① 半消化態栄養剤の窒素源はペプチドである。
- ② 胃食道逆流防止を目的とする場合、半固形状流動食の粘度は $2,000\text{mPa} \cdot \text{s}$ 以上あることが望ましい。
- ③ 胃瘻造設の基準に生命予後が 1 か月以上であることが挙げられる。
- ④ 侵襲期の代謝亢進時には外因性エネルギーで必要エネルギー量を満たす。

問 30 胃瘻カテーテルを使用している患者の看護で正しいものはどれか。

30

- ① バンパー埋没症候群の予防としてボタン型よりチューブ型の胃瘻カテーテルを選択する。
- ② ボールバルブ症候群の予防としてボタン型よりチューブ型の胃瘻カテーテルを選択する。
- ③ 半固形状流動食の注入は 400mmHg を超えない注入圧で実施する。
- ④ 半固形状流動食を注入する場合、ボラスチューブを使用する。

問 31 令和 2 年の死亡数を死因順位別でみて第 1～5 位にないものはどれか。

31

- ① 心疾患（高血圧性を除く）
- ② 脳血管疾患
- ③ 老衰
- ④ 誤嚥性肺炎

問 32 気管切開の必要な理由で誤っているものはどれか。

32

- ① 上気道狭窄
- ② 補助換気
- ③ 誤嚥予防
- ④ 気道分泌物の吸痰

問 33 摂食嚥下 5 期モデルの咽頭期で誤っているものはどれか。

33

- ① 喉頭が挙上する。
- ② 嚥下性無呼吸がある。
- ③ 嚥下反射が惹起する。
- ④ 食道口が開閉口する。

問 34 反復唾液嚥下テスト（RSST）で誤っているものはどれか。

34

- ① 30 秒間になるべく早く空嚥下するように指示する。
- ② 舌骨および喉頭隆起に第 2 指と第 3 指の指腹を軽く当てる。
- ③ 口腔乾燥による測定への影響がある。
- ④ 嚥下回数が 4 回以下の場合を異常とみなす。

問 35 改訂水飲みテスト（MWST）で誤っているものはどれか。

35

- ① 冷水 3ml を口腔底に注ぐ。
- ② 実施後、最高点を評価とする。
- ③ 評価点が 4 点以上なら最大 2 回施行を繰り返す。
- ④ 嚥下後、反復嚥下を 2 回行わせる。

問 36 栄養管理で誤っているものはどれか。

36

- ① BMI (体格指数) は、体重 (kg) ÷ (身長 (m) ×身長 (m)) で求める。
- ② 総合的に評価するには CONUT 法を用いる。
- ③ 血清総タンパク値、クレアチニン値などは動的アセスメントに用いる。
- ④ 1日のエネルギー投与量は、体重×25~30kcal (体重からの概算) で求める。

問 37 看護過程の説明で誤っているものはどれか。

37

- ① 観察は看護上の判断に影響する。
- ② 看護理論は看護過程を展開する為に活用する。
- ③ 目標の設定や看護の方向性はアセスメントの結果に沿ってマニュアルでおこなう。
- ④ アセスメント→問題の明確化 (看護診断) →目標設定→計画立案→実施→評価の順で展開する。

問 38 脱水の所見で誤っているものはどれか。

38

- ① ツルゴール低下
- ② 脈拍 100 回/分以上
- ③ ブランチテスト (CRT) 3 秒未満
- ④ 尿素窒素 (BUN) /クレアチニン (Cre) 比の上昇

問 39 加齢で認められる生理学的変化で誤っているものはどれか。

39

- ① 安静時唾液の減少
- ② 嚥下性無呼吸時間の延長
- ③ 口渇中枢の感受性上昇
- ④ 不感蒸泄の減少

問 40 フレイルのうち社会的フレイルの要因に含まれないものはどれか。

40

- ① 低栄養
- ② 口腔機能低下
- ③ 骨量減少
- ④ 認知症